

2025年 第3回 定例会報告

毎年の第1回定例会と第3回定例会では代表質問が行われますが、県民クラブでは所属議員みんなで質問項目を検討し、分担して質問原稿を作成しています。

今回、成迫健児議員（佐伯市選出・右写真）が代表質問に登壇しました。代表質問から、3項目を紹介します。



米の生産振興について

昨年从此れまで安定供給されてきた米が、突然、品不足になり、店頭での米価格が5kgで4千円を上回る状況になりました。政府は備蓄米の放出等も行いましたが、安心して購入できるようになるまでにはまだまだ時間がかかりそうです。

米の生産について、大分県は園芸作物と比較して面積あたりの収益性が低いことから、水田の畑地化・汎用化を進め、収益性の高い園芸品目への転換に重点を置いてきました。

主食としての米の位置づけは重要です。本県での米作りの現状、米の生産振興にどのように取り組んでいくのでしょうか。



【答弁】 米価格の高騰について、国はインバウンド需要等による消費量の拡大や、高温障害に伴う精米歩留まりの低下を考慮せず需要見通しを示したことで、需要量に対して生産量が不足したことが要因と分析している。

米の安定供給に向け、大分県では農地の集積・集約化や基盤整備による大区画化のほか、スマート農業技術の導入等を推進し、生産コストの低減を図っている。県として意欲ある中核的経営体の規模拡大など、水田をフル活用した持続的な地域農業の実現に取り組んでいきたい。

県立高校入試の複数校志願制度について

少子化が進む中、「高等学校等就学支援金制度」の拡充により、来年度からは公立・私立高校ともに授業料が実質無償化されます。

そのような中、7月に県教委は来年度の高校入試から「複数校志願制度」を導入することを発表しました。突然の入試制度の変更の発表により、中学3年生をはじめ多くの生徒や保護者、学校関係者の動揺が広がったことを県教委はどのようにお考えでしょうか。

【答弁】 来年度から私立高校の授業料無償化に伴い、地域の県立高校の定員確保の対応は急務である。

今回導入する制度は、一次入試における学力検査の成績を第二志願の選抜にも利用するため、受験生の負担軽減が図られ、入学考査料や入試事務の点でも保護者や高校にとってもメリットとなる。従来の二次入試に代えて実施するものであり、受験生の負担が生じることはない判断し、来年度入試からの導入を決定した。

自転車運転の「青切符」導入について

青切符は、現認・明白な道路交通法違反について、警察本部長の通告を受けて反則金を納付した場合は公訴されない制度です。

これまで自転車を含む軽車両はこの対象外とされていましたが、昨年成立した改正道路交通法により青切符による取り締まりが来年4月から導入されることになりました注1。

この法改正の周知啓発が充分ではないと思えるのですが、県警の見解をお尋ねします。

【答弁】 全国的に自転車に関連する交通事故が増加し、特に自転車対歩行者の事故が増加傾向にあり、実効性のある指導取り締まりを推進し、自転車に関する交通安全を実現するため本制度は導入された。

県警では、自転車利用時の正しいルールを学ぶためのコンテンツをホームページに開設した。教育委員会と連携して学校現場で周知を進めるなど、広く県民に周知していくよう取り組んでいる。

注1 主な反則金の額は、携帯電話を使用しながら運転する「ながら運転」が1万2,000円、信号無視が6,000円、逆走や歩道通行などの通行区分違反は6,000円、並んで走行する並進禁止違反が3,000円となっています。



私のHPIにも議会活動・活動報告を掲載していますので御覧下さい。

大分県議会議員 原田たかし

Q 検索

<https://harada-oitakengi.com/>

